

音楽科学習指導案

令和6年6月13日(木) 学習指導Ⅱ 第1学年1組(第1音楽室) 指導者 稲森 稚明
吉田 有沙

【題材】 どれみとなかよくなるう (A表現(2) ア, イ(ア), ウ(イ), B鑑賞 イ)

考察	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
育成を目指す資質能力	<ul style="list-style-type: none"> ・曲や音の感じと演奏の仕方との関わりに気付く力 ・様々な音の表し方を生かして, 鍵盤ハーモニカを演奏する技能 	<ul style="list-style-type: none"> ・曲や音の感じを生かして, 鍵盤ハーモニカで演奏することについて思いをもつ力 	<ul style="list-style-type: none"> ・鍵盤ハーモニカの音の感じに興味をもって, 様々な音を楽しみながら聴いたり演奏したりしようとする態度
子どもの実態	<ul style="list-style-type: none"> ・曲の感じと拍やリズムとの関わりに気付く, 拍やリズムに合わせて, 歌ったり体を動かしたりしてきている。 ・演奏の仕方を変えると, 曲や音の感じが変わることにまで気付いていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・拍やリズムを生かして, 歌ったり体を動かしたりすることに思いをもってきている。 ・鍵盤ハーモニカの音の長さや高さの違いを聴き取った経験が少なく, 音の感じを生かすことについて思いをもつことが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・拍やリズムに関心をもち, 楽しみながら歌ってきている。 ・楽器で, 様々な音を出す経験が少ないため, 鍵盤ハーモニカで様々な音を出す楽しさを味わえていない。
価値	<p>・鍵盤ハーモニカは, 1年生の子どもたちが初めて扱う鍵盤楽器である。自分の楽器を持つことや演奏することに対して嬉しさを感じ, 様々な音を出したいという意欲をもって演奏できる。『みつばちのぼうけん』では, 鍵盤ハーモニカに対して関心をもちとともに, 場面に合わせて変わる音の感じから, 鍵盤ハーモニカで様々な音で表せることについて気付く。『たのしくふこう』では, 自分の思いに合わせて弾む音や伸ばす音, 高い音や低い音など様々な音の表し方を試すことができ, 自分たちでも様々な音を表せることに, 演奏を通して気付く。そして『なかよし』で, 表したい動物の特徴や様子を音の表し方を考えて演奏することで, 曲や音の感じと演奏の仕方とが結び付くことを実感できる。動物は, 子どもたちが体の特徴や動きの様子を想像しやすいテーマであるとともに, 前題材までに想像しながら歌った動物の様子を想起することができ, 経験を基に思いをもつことにつながる。これらの学習を通して, 曲想と音色との関わりを生かして演奏したり聴いたりすることの素地を養うことができる。</p> <p>・『みつばちのぼうけん』を, であう過程と追求する過程で繰り返し聴くことは, 曲の場面に合わせた音の感じの違いに着目することにつながり, 曲の感じと演奏の仕方との関わりについて気付くことができる。そして, 気付いたことを生かして, 演奏することができる。</p>	<p>・曲に合う音の表し方を複数試したり, 『なかよし』を, 動物の特徴や様子を想像しながら音の表し方を考えたりすることは, 自分の好きな動物の様子を音で表現したいという思いをもつことにつながり, 鍵盤ハーモニカの音の感じを生かして演奏したいという思いをもつことができる。</p>	<p>・鑑賞や演奏を繰り返し, 鍵盤ハーモニカの様々な音の表し方を実感することによって, 自分で表したい音が出せる楽しさや喜びを感じられる。そして, 鍵盤ハーモニカの音の感じに興味をもち, 楽しみながら聴いたり演奏したりしようとする態度につながる。</p>
見方・考え方	音楽に対する感性を働かせ, 音や音楽を音色とその働きの視点で捉え, 自己のイメージや感情と結び付けて表現したり聴いたりすること。		
今後の学習	1年「みんなで音を合わせよう」において, 鍵盤ハーモニカと簡易打楽器とを合わせて曲想に合う音色を生かして合奏することにつながる。		

指導と評価の計画

目標	曲や音の感じを感じ取りながら、楽しく鍵盤ハーモニカを演奏することができる。		
評価 規準	(①知・技) 曲や音の感じと演奏の仕方との関わりに気付き、様々な音の表し方を生かして鍵盤ハーモニカを演奏している。 (②思・判・表) 曲や音の感じを生かして、鍵盤ハーモニカで演奏することについて思いをもっている。 (③主体的態度) 鍵盤ハーモニカの音の感じに興味をもって、様々な音を楽しみながら聴いたり演奏したりしようとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
であ う	1	○『みつばちのぼうけん』を聴いたり、『たのしくふこう』を、鍵盤ハーモニカで演奏したりして、学習のめあてをつかむ。 学習のめあて いろいろな音を出して遊びながら、鍵盤ハーモニカとなかよくなる	○鍵盤ハーモニカの、音の感じの違いに気付けるように、曲や音に合わせて体を動かす機会を設定する。
	1	○『たのしくふこう』を、様々な音の表し方で演奏する。	○鍵盤ハーモニカの音の感じと演奏の仕方を結び付けて整理できるように、音の感じを表すイラストを用意する。
追 求 す る	2	○『どんぐりさんのおうち』を、鍵盤ハーモニカで演奏する。	○音の位置が正確に分かるように、鍵盤ハーモニカの写真と、階名を示すイラストを用意する。
	1	○『みつばちのぼうけん』を、曲や音の感じに気を付けながら聴く。	○曲の感じに着目して『みつばちのぼうけん』を聴けるように、場面ごとの曲の感じと音の表し方との関わりを整理する模造紙を用意する。
	1	○『なかよし』を、曲や音の感じに合わせて演奏する。	○歌詞や経験を手掛かりにして思いをもてるように、動物の特徴や様子を表す曲と結び付けて歌ったり演奏したりする機会を設定する。
	1	○『なかよし』を、様々な音の表し方で演奏する。 (本時)	○動物の名前を含んだ歌詞に合わせて様々な音の表し方を試せるように、歌詞と演奏したい曲の感じを結び付けられる思考ボードを用意する。
・ま 生と かめ する	1	○『なかよし』の発表会をする。	○曲の感じと音の表し方を結び付けながら楽しく演奏できたことを実感できるように、発表した後、発表した班に感じ取ったことを伝える機会を設定する。
			評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
			◇鍵盤ハーモニカの音の感じに興味をもち、音の感じを体の動きや言葉で表現している。 <身体表現・発言③>
			◇鍵盤ハーモニカの音の感じと演奏の仕方とを結び付けて発言している。 <発言①>
			◇正しい音を鍵盤ハーモニカで演奏している。 <演奏①>
			◇曲の感じと音の表し方の関わりに気付き、発言したり記述したりしている。 <発言・学習プリント①>
			◇動物の名前を含んだ歌詞から表したい曲の感じを思い浮かべて演奏したり発言したりしている。 <演奏・発言②>
			◇歌詞に合う音の表し方を考え、友達に伝えたり試したりしながら演奏している。 <演奏②>
			◇曲の感じと音の表し方を結び付けながら、演奏をしたり友達の演奏を聴いたりしている。 <演奏①②③>

本時の学習（7／8時間目）

ねらい 動物の特徴や様子に合う音の表し方を、友達と相談したり試したりすることを通して、動物の名前を含んだ歌詞に合う音の表し方を考えて、鍵盤ハーモニカで演奏することができる。

評価項目 歌詞に合う音の表し方を考え、友達に伝えたり試したりしながら演奏している。

<演奏②>

学習活動と子どもの意識	指導上の留意点
<p>1 本時のめあてをつかむ。</p> <p>・動物の特徴や様子を歌だけじゃなく鍵盤ハーモニカの音でも表せたら楽しそうだな。私たちはぞうさんが、なかよく歩いたり遊んだりしている様子を鍵盤ハーモニカで表してみたいな。（目的意識）</p>	<p>○自分たちの表したい動物の特徴や様子を、鍵盤ハーモニカの音の表し方を考えながら演奏するという見通しがもてるように、前時で考えた動物を含んだ歌詞と表したい動物の特徴や様子が記されている思考ボードを見て、自分たちが表したい動物の特徴や様子を確認するよう促す。</p>
<p>めあて：動物の様子に合う音で鍵盤ハーモニカを演奏しよう</p>	
<p>2 試しに演奏しながら、動物の特徴や様子に合う音の表し方を考える。</p> <p>・私たちは、ぞうさんがなかよく遊んでいる様子を表したいな。ぞうさんだから、ゆっくり歩いたり鼻を動かしたりしていそうだね。長く伸ばす音で演奏したらどうか。試してみよう。</p> <p>・長く伸ばして演奏してみたら、ぞうさんがゆっくり歩いているみたいだったね。長く伸ばすカードを貼っておこう。でも、ぞうさんって大きいから、演奏する人を増やすカードを貼ろうかな。2人で演奏するときと3人で演奏するときを比べて演奏してみようよ。</p> <p>・人数を増やして大きな音で演奏すると、本当にぞうさんの大きい体が表せている気がするね。友達のグループにも聴いてもらいたいな。</p> <p>・友達のグループに聴いてもらったら、音を伸ばして3人一緒に大きな音で演奏していて、大きなぞうさんがゆっくり歩きながら遊んでいる感じが伝わったと言ってもらったよ。友達のグループは、短く切る音で演奏していて、りすがすばやく走っている様子が伝わってきたよ。</p> <p>・他のグループの友達は、きりんさんを表すために高い音で演奏していたね。私たちも音の高さを変えて試したら、ぞうさんには、高い音より低い音がいいと分かったよ。</p> <p>・音を伸ばして低く大きな音で演奏すると、ゆっくり歩いたり鼻を動かしたりしている様子が表せることが分かったよ。ぞうさんがゆっくり歩いたり、鼻を動かしたりしながらなかよく遊んでいる様子を、鍵盤ハーモニカの音の感じを変えて演奏できて面白いな。（目的を達成した意識）</p>	<p>○動物の特徴や様子を表すための音の表し方を4～5人のグループで相談してから試すことができるように、表したい動物の特徴や動く様子と、それに合う音の表し方を問いかける。</p> <p>○自分たちの表したい動物の特徴や様子に合う音の表し方を複数試すことができるように、演奏して比較しながら、表したい動物の特徴や様子に合う音の表し方のカードを、思考ボードに貼るよう促す。</p> <p>○自分たちの表したい動物の特徴や様子に合う音の表し方の実現度に気付けるように、歌う人と演奏する人の役割を代えながら自分たちのグループの演奏を聴き、思い浮かんだ動物の特徴や様子を伝え合うよう促す。</p> <p>○自分たちの考えた音の表し方で動物の特徴や様子が伝わることを実感できるように、別のグループの友達同士で聴く機会を設定し、伝わってきた動物の特徴や様子を問いかける。</p> <p>○友達の音の表し方を生かして自分たちの動物の特徴や様子に合う音の表し方を再度考えられるように、友達の考えた音の表し方でよいと思ったことを、自分たちの動物の特徴や様子を生かしながら真似してみるよう促す。</p> <p>○自分たちの音の表し方を振り返ることができるように、試しながら決めた音の表し方でグループごとに行った演奏について、自分たちで決めた音の表し方の理由と演奏して感じたことを問いかける。</p>
<p>3 本時の学習の振り返りをする。</p> <p>・鍵盤ハーモニカで、いろいろな動物の様子を表せて楽しかったよ。まだ聴いていない、別の友達の演奏も聴いてみたいな。</p>	<p>○動物の特徴や様子に合う音の表し方を見付けられたことが実感できるように、様々な音の表し方を試しながら考えられたことを称賛する。</p>